

一般舗装と4種類のクールアイランド舗装の実験場。見学者には簡易温度計で表面温度の違いを計ってみせてくれる一岐阜県多治見市で



屋根、舗装に新素材

猛暑はね返せ

太陽光の熱の吸収を抑える屋根・舗装製品を岐阜、愛知県のメーカーが開発している。アスファルトなどが熱を吸収し、たまった熱が空気を暖める都市部のヒートアイランド現象を防ぐ試みだ。名古屋工業大(名古屋市中昭和区)の岩尾憲三教授(環境生物工学)が技術指導する。全国最高気温を何度も記録した岐阜県多治見市など、高温都市をいくつも抱える東海地方。さて効果のほどは。＝関連＝



岩尾憲三教授

岩尾教授は、アスファルトの路面や、建物、屋根、壁のコンクリートなどで熱の吸収が少なくなれば、ヒートアイランド現象を抑制できる。「太陽熱反射都市冷却理論」を提唱。太陽光を反射させる取り組みを各地で指導している。愛知県半田市の瓦製「岩尾教授が、実績が造販会社「鶴弥」からまず勧めるのが、岐阜、太陽光をはね返す。岐阜大垣市の塗料販売「うわぐすり」を使った瓦を製造。熱を吸収した水性塗料「ロー意。名古屋大の研究で、特殊な、最高気温が四〇度

東海の企業続々

名工大教授
技術指導

すると、瓦の表面温度は二二度も低くなった。二〇〇七年に国内観測史上最高の四〇・九度を記録した多治見市では、市や地元の陶磁器工業協同組合、建設業協会などによる「東濃地域温暖化対策協議会」が今年五月から、白色のタイルを砕いた粉を道路舗装に使った「クールアイランド舗装」の実験を、市内四方所で行っている。これまで一般の舗装に比べて表面温度が七度低くなる傾向が出ている。舗装には廃棄されたタイルを粉砕して使い、廃棄費用の節約にもつながる。実験は九月末ごろまで続ける。岩尾教授は「光を反射させる技術が普及すれば、路面などの温度上昇を抑えられる。名古屋などの都市部で、気温を二・四度下げられるはずだ」と話している。



夕刊

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8311